

# 日本の三つの構造転換課題に挑戦し、 二十一世紀を切り拓く新しい学科が、 駒澤大学経済学部誕生！

新学科設置準備委員会 経済学部教授 吉田 敬一



発行  
駒澤大学経済学部  
同窓会  
〒154-8525  
東京都世田谷区駒沢  
1-23-1

**\*駒澤大学経済学部の新時代への挑戦**  
少子化が進む中で全  
国の大学入学定員と大  
学進学希望者数は、志  
望する大学や学部によ  
り異なるが、ほぼ等  
しい状態にあり、大学  
全入時代が到来しつつ  
あります。とりわけ二  
部あるいは夜間主コー  
ス(フレックスB)に  
対する社会的ニーズの  
減退は著しく、多くの  
大学で二部やフレック  
スBは定員割れか、定  
員割れ寸前の状態にな  
っています。

また日本経済の構造  
転換の中で日本型経営  
は大きく姿を変え、企  
業内職業教育を前提と  
した新卒採用システム  
から、多様な雇用形態  
の下で実践的能力を備  
えた即戦力となる人材  
を採用する傾向が進ん  
でいます。こうした大  
学に対する社会的ニ  
ズの変化は、有職者を  
対象とした本来の二部  
やフレックスBの社会  
的使命・存在意義を希  
薄化するとともに大学  
教育のあり方やカリキ  
ュラム編成に根本的な  
革新を求めている、と  
いえます。

そこで本学経済学部  
では、日本社会が求め  
る経済学教育に代わる  
経済学部へと自己変革  
の一環として、歴史と伝  
統を有する経済学科夜  
間主コース(フレック  
スB)を新学科に改組  
した。経済学科と商学  
科が並存する経済学部  
は全国でも稀有な形態  
ですが、その特徴をさ  
らに先鋭化するために  
経済学と経営学・商学  
を統合的かつ実践的な  
視点から学ぶ学科とし  
て、現代応用経済学科  
を設置することを決定  
し、二〇〇七年四月開  
設を目指して準備を進  
めています。

以下、本紙の紙面を  
お借りして、新学科の  
特徴を説明させていた  
だきます。

**\*現代日本が直面して  
いる構造転換課題に  
挑む新学科**  
今、日本が直面して  
いる経済構造転換には、  
大きく三つの課題があ  
ります。

一つは、世界中を巻  
き込んでいくグローバ  
リゼーションの課題で  
す。国境を越えて企業  
や人、マネーが自由に  
行き来する中で、空洞  
化しない経済をいかに  
創り上げるかが、鋭  
く問われています。

二つ目は、日本経済  
をキャッチアップ型か  
らフロントランナー型  
に転換する課題です。  
アメリカをモデルに一  
日でも早く先進国に仲  
間入りしようという形  
で経済発展を遂げた日  
本がその目的を達成し  
たので、次は日本型の  
豊かな経済・社会シス  
テムを創っていく必要  
があります。

三つ目は、世界史上  
でも類例を見ないよう  
な、短期間に劇的な形  
で進む少子高齢社会に  
どのように対応するか  
という課題です。

これら三つの課題に現  
在の日本経済が挑戦して  
いくには、これまでの  
オーソドックスな経済  
学の理論の適応法や  
経営実践の手法を抜本  
的に革新していく必要  
性があります。これが、  
現代応用経済学科の、  
「現代」という言葉の  
もつ意味です。これか  
らは、グローバルゼー  
ションの中で認められ  
る世界共通のパターン、  
すなわち普遍性と共に、  
日本の特色のある経済・  
社会の仕組みや企業の  
あり方というものを追  
求していくことが大切  
です。グローバルゼー  
ションの中で光り輝く  
国民経済や地域経済、  
あるいは企業というも  
のには、基本的にローカ  
リズム、すなわち個性・  
オリジナリティという  
ものをもっておく必要  
性があります。

従来日本の経済学  
あるいは大学の教育  
では、日本的な特色よ  
りも、アメリカ型の理  
論・実践・ケーススタ  
ディが重要視されてき  
ました。それに対して、  
二十一世紀を担ってい  
く若者には、日本の現  
実と可能性を踏まえて  
三つの構造転換課題に  
対応して活躍する能力  
が求められています。

本学科では経済学の研  
究成果を創造的に「応  
用」できる人材を育成  
します。

**\*現代日本の課題をド  
ラスティックに洞察  
するための二つのコ  
ース**  
駒澤大学の経済学部  
の特長は、既存の経済  
学科と商学科の科目も  
学生の問題意識に応じ  
て履修できる点にあり  
ます。こうした自由な  
学習環境の下で、現代  
・応用という側面から本  
学科では、大きく二つ  
のコースを設けていま  
す。

一つは、グローバル  
スタンダードに対応し  
つつ、日本企業の経営  
の現代的課題を考え、  
その担い手を育成する  
ことを目的としたビジ  
ネス経済コースです。  
現代の経済と企業経営  
の構造と行動を理解す  
るために不可欠なゲー  
ム理論、企業経済学、  
契約理論、企業社会責  
任論、企業統治論など  
の最先端の知識を体系  
的に学ぶコースです。  
もう一つは、コミュニ  
ティ経済コースです。  
グローバルゼーション  
が進むなかで、コミュニ  
ティの危機への対応  
がいずれの国でも焦点  
の課題となっています。  
持続可能な地域経済を  
創造するために、地域  
密着型の中小企業や金

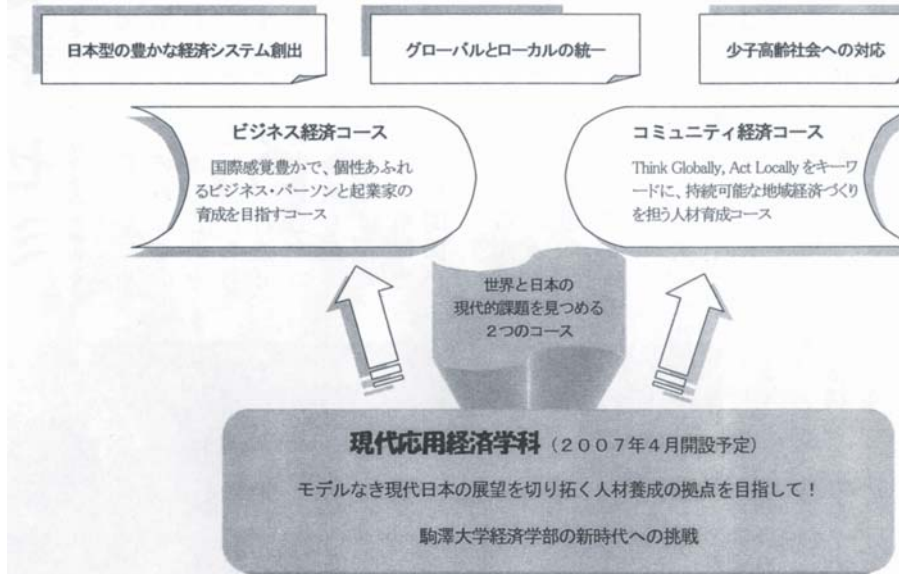
融機関の現代的再生、  
ベンチャー企業、起業、  
自治体の新たな役割、  
NPO・コミュニティ  
ビジネスや協同組合的  
組織の存在意義などに  
重点を置いた学習を行  
うコースです。

**\*マルチな視点を備え  
た時代の開拓者の養  
成にチャレンジ!**  
二十一世紀を担ってい  
く若者は、マクロ(経  
済学的視点)とミクロ  
(経営学・商学的視  
点)、言い換えれば鳥  
の目と虫の目の複眼を  
持っているといわれ、現  
社会が提起している問  
題に対応していかませ  
ん。現代応用経済学科  
で学ぶことにより、社  
会経済の構図と発展方  
向(海図)を把握し、  
具体的な企業経営の指  
針(羅針盤)を身につけ  
ることができるようで  
しょう。「どうなる日本  
経済」ではなく、「ど  
うする日本経済」とい  
うチャレンジ精神に満  
ちた発想を有する若者  
の養成を現代応用経済  
学科は目指しています。  
同窓会の皆様方の暖  
かいご支援・ご声援を、  
心より祈念しています。

**経済学部同窓会連絡先**  
〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1  
電話 03-3418-9521 大沢(おおさわ)  
9093 池嶋(いけがき)  
会長 大場 康宣  
昭和45年経済学部卒業 世田谷区議会議員  
※前会長の勝場政範氏は駒澤大学同窓会の会長を務めています。

**王者復活なるか**  
駅伝、十月の出雲では  
五位王者復活への道は  
程遠く感じられたもの  
ですが、十一月の全日本  
大学駅伝、やってくれ  
ました。駒大関係者は  
三位を目標に、他大学  
の下馬評では五位がい  
いとところだろうとの声  
も聞かれた。その声に  
選手達は奮奮、特に一  
年生三人はよく頑張り  
ました。三年生も安定  
した走りを見せて日頃  
の練習の成果の賜物だ  
と感した。

今回の大会は八人の  
中継しかし、箱根駅伝で  
は十人の力が必要とな  
る。あと一人、新人か、  
それとも四年生の踏張  
りか、大いに期待した  
い。もうまもなく正月  
を迎える時期となりま  
した。同窓生一同大い  
に期待し応援しよう。  
王者駒大に!



# 経済学部ゼミシリーズ

## ★小栗ゼミ

私たちが小栗ゼミは、「会計ビッグバン」による国際会計基準との統合などの影響から起こっている、日本の企業会計制度の改変やそのもとでの企業動向について研究しています。日頃の授業内容として、まずは課題の本を決め、その本をゼミ生一人一人



人で分担・要約し、それぞれの分担テーマに対して発表を行い、それに関連する話題についてゼミ生同士が質問を交わすといった形をとっています。最近では、将来の職場で役立つであろうプレゼン形式に慣れるために、パワーポイントを使って

の発表方法をとることで、プレゼンテーションの基礎スキルを学び、説得力のある表現方法などを身につけようと皆で努力しています。

もちろん僕らにもは理解しづらい、難しいテーマや内容・質問等が出たりして行き詰まったときなどは、小栗先生がわかりやすく非常に丁寧に教えてくれるので心配はありません。また授業も緊張感

授業以外でも普段からゼミ生同士の仲は非常に良く、花見や飲み会の計画などの企画も充実しています。今春には富士急ハイランド

にゼミ生みんな遊びに行くなど、皆でいろいろなところに行ったりしています。また、男子は毎週、自主的にソフトボール大会に向けた練習を欠かさず、団結力の点ではどのゼミにも負けないものを持っていると僕は思っています。今年のソフトボール大会では最高の成績を残せるように頑張ります。

小栗ゼミでは毎年、夏季・冬季と合宿を行っています。合宿では前・後期に学んだことのまとめはもちろん、小栗先生の別荘におじやまして軽井沢の自然を満喫したり、スキーに行ったりして遊んだりします。

ゼミ生みんなと過ごす時間はあつという間に過ぎていきます。こう感じるのも小栗ゼミの居心地の良さからかもしれません。これからも小栗先生のもとで多くのことを学び、悔いのない学生生活を過ごせるように頑張っていきたいと思えます。

写真は二〇〇五年夏の軽井沢でのゼミ合宿風景です。  
(経済学部三年 小栗 翔平)

写真は二〇〇五年夏の軽井沢でのゼミ合宿風景です。  
(経済学部三年 小栗 翔平)

## ★岩波文孝ゼミ

近年、CSR(企業社会的責任)を推進している企業が増えてきています。CSRとは「企業の社会的責任」を意味していて、特に非財務的要素、すなわち環境問題や社会問題が企業の中核課題として位置づけられ、そのような問題への対応が企業価値の判断に含められるようになったのです。そうした風潮がある状況で、岩波ゼミで学ぶ事は非常に役立つと思えます。なぜなら就職活動において、企業の売上や業績だけでなく、社会的に適正な活動をし、また評価を受けているのかを、多少なりとも意識して情報収集できるからです。

私は二年生の始めの頃、ゼミとは何をやるのだろうと不安でいっぱいでした。しかし岩波先生の親しみやすい

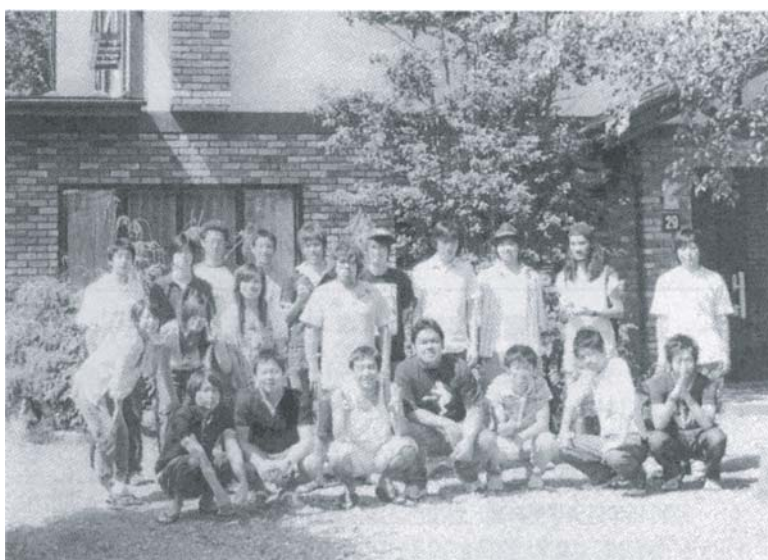
関西弁、そして楽しく明るいゼミのみんなのおかげで、この岩波ゼミがとても好きになりました。また、岩波ゼミでは、誕生日会やコンパなどの企画も充実していて、今ではみんなお互いに打ち解けたざっくばらんな関係が築けています。

しかし、もちろん遊んでばかりいるというわけではありません。二〇〇六年度夏のゼミ合宿では班ごとの研究報告を行い、また質問や意見を交わし合いました。そして全ての班が納得し合ったところまで議論をし、集中した中身の濃い勉強会となりました。

## ★代田純ゼミ

私は、一九九一年から三年間、(財)日本証券経済研究所(大阪)で研究員として過ごし、一九九四年から八年間立命館大学で助教授(二〇〇〇年からは教授)として勤務しました。歴から関西出身と誤解

されますが、生まれも育ちも横浜です。縁があつて、駒澤大学に採用いただき、五年が経過しつづつあります。代田ゼミの卒業生はまだ、三学年以上が巣立っていません。しかし、なかなか努力家が多く、警視庁などで活躍して



また昨年度は代田ゼミの二年生(現三年生)が入賞する、といったうれしいニュースもありました。日経ストックリーグは、中学生から大学生までが、株式投資とレポートで競うコンテストで、全国で二〇〇〇チーム程度が参加します。このなかで、五十チームほどが表彰されますが、代田

ゼミ二年生は「パフォーマンス賞」を受賞しました。これは代田ゼミ二年生チームが、銀行株、証券株中心のポートフォリオを組み、高い運用成績をあげたためです。詳細は<http://manabow.com>の昨年の表彰チームに紹介されています。写真は二〇〇六年のゼミ合宿を河口湖で行なった時の集合写真です。貸し別荘を借り、バーベキューで盛り上がりました。二年前、同じ別荘で、中国からの留学生たちが、餃子を大量に作ったことも忘れられません。合宿で生き生きとしたゼミ生の顔を見ることが、毎夏の恒例行事となっています。

以上

★鄭 章淵ゼミ

二〇〇五年ソフトボール大会

私たちのゼミでは、「現代東アジア経済研究」と題して、第二次世界大戦後の東アジア経済の発展過程について学んでいます。ここでいう「東アジア」とは、東北アジアと東南アジアを合わせた地域を意味します。北東アジアには、日本をはじめ朝鮮半島、中国、香港、台湾などが含まれ、東南アジアには、タイ、シンガポール、マレーシアなど、いわゆるASEAN（東南アジア諸国連合）に属する十か国（最近独立した東ティモールまで含めると十一か国）が含まれます。ここ数十年來、東アジア各国の経済発展はめまぐるしく、その発展ぶりについて世界銀行は「東アジアの奇跡」と呼んだほどです。ここでいう「奇跡」とは、研究者の多くが予想しなかったところに経済発展が起こったことを意味しており、学問的にも大いに関心と呼んでいます。

言うまでもなく、この東アジアは日本との経済関係が深く、両者の相互依存関係はかつてなく深まっています。日本からは多くの企業がアジアに進出し、また、アジアからは廉価

な製品を中心にたくさん生産物が日本に輸出されています。このような国際分業関係の深まりが東アジアという地域的な広がりをもつ経済発展を可能にしたと言えます。今後、日本と東アジアの経済関係はいつそう深まっていくものと思われませんが、その点からも、日本人にとってアジアを学ぶことはますます大切になってきています。

二〇〇五年十月十五日に行われた経済学部ソフトボール大会は他のゼミとの交流もでき、またあまり接触のない他学年ゼミとも触れ合える場だったのでとても貴重な体験ができました。私は高校まで野球をしてきたこともあり、ゼミに入る前からこのソフトボール大会が楽しみだったのが、大会当日だけが楽しかったのではなく、ソフトボール大会が行われる二週間ほど前から同じゼミの上級生と連絡を取り合ってバツティングセンターに行き練習し、駒沢公園でキャッチボールをするなど、このイベントのために練習することも楽しかった。大会当日は、各々のゼミの野球・ソフトボール経験者を審判に指名して大きな誤審もなく要領よく試合が進行できていたし、一回戦で負けてしまっても、敗者復活により最低でも二試合はできたので、私は安心して試合に臨めたし、みんなそれなりに満足できたと思う。

ちなみに、私のゼミの試合の経緯としては、一回戦は勝ったが二回戦では一対〇で負けてしまった。しかし、私は勝ち進めなかった悔しさより、ゼミの先輩や同学年のゼミの仲間と楽しくできたということのほうが印象に残っている。ヒットを打ったら当然全員で喜び、エラーをしてもそのエラーに対してドンマイと声をかけ、ミスをしなくてもあまり気にすることなく試合をすることができた。こうやって楽しくできたのも、先輩達と仲良くなり、協力しながら試合ができたことが大きかったと思う。

このソフトボール大会が終わってから、ゼミの先輩と学校で会っても普通に話すようになったし、ゼミ内であまり話したことのない人とも仲良くなり、学食で一緒にご飯を食べたりするようになった。こういうことを考えると、経済学部のソフトボール大会を行うことによって色々な体験ができ、たくさんの人と仲良くなれることができた。こういう体験をしているのは私だけではなく、ソフトボール大会に参加した大半の人が感じていることだと思う。だからこの経済学部ソフトボール大会はこれからも続けたいと感じた。

（商学科三年 諸岡大貴（岩波ゼミ））

2006年4月、赤坂アークヒルズにて現役の先生、退職した先生、非常勤の先生方で経済学部懇親会が行なわれたが、その際に撮られた記念写真です。

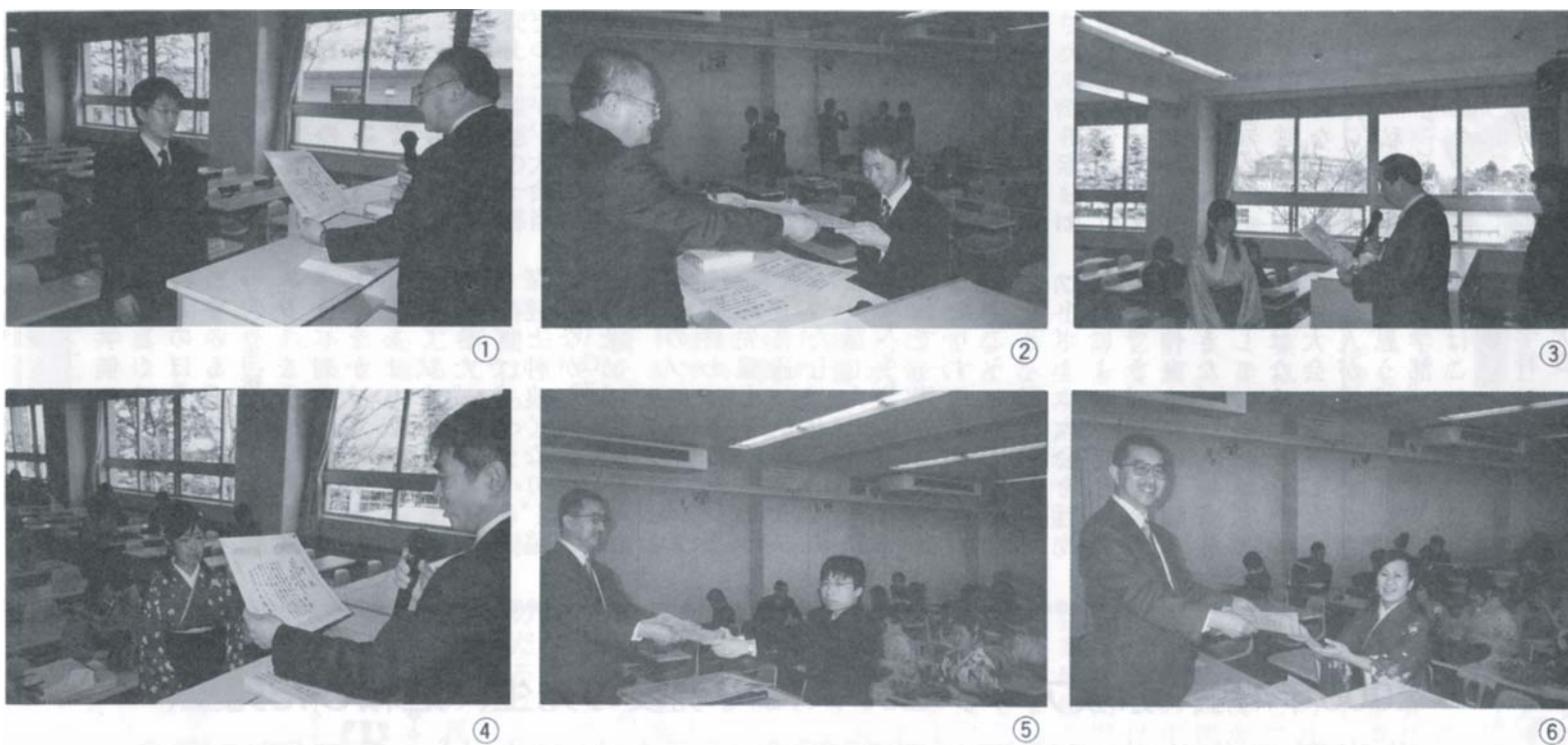


# 卒業式で「経済学部同窓会会長賞」授与

経済学部同窓会は、平成十八年三月二十五日に挙行された卒業式で、経済学部の学生で、学業で優秀な成績を修め、人物共に優れた学生九名に経済学部同窓会より「経済学部同窓会会長賞」が授与された。表彰された9名は、教務部で選考され、経済学部教授会で審議の結果選出されたもので、表彰者は次の卒業生である。

経済学科フレックスA	商 学 科	経済学科フレックスB
氏 名	氏 名	氏 名
佐藤 大樹	小山 貴里衣	御菩薩池 高弘
糸田 政徳	王 燁	山口 高志
堀越 悠	前田 優	武見 綾子

表彰式は、卒業式の後、各学科に分かれて行われる卒業証書授与式の際に行われ、表彰状と記念品がそれぞれの学生に授与された。佐藤大樹、小山貴里衣、御菩薩池高弘君の三名は学長賞も同時に授与された。四年間真面目に努力してきた成果と受賞の喜びを語っている。写真は会長賞を授与される①佐藤大樹君、②堀越 悠君、③王 燁さん、④前田 優さん、⑤御菩薩池高弘君、⑥武見綾子さんです。



## 社会人のための大学院案内

大学院経済学研究科委員長 友松 憲彦

経済の情報化、グローバルにより経済活動はますます高度で複雑なものになっています。大学院に対する社会的ニーズも多様になり、大学院も多彩な人材を養成する組織となりました。研究者をめざす者だけでなく、会計士や税理士など専門職の資格取得、高度な職業的専門知識の習得をめざす社会人や実務家も増加しています。また、学ぶ楽しさ、心の豊かさを求めて大学院を生涯学習の場とする社会人もいます。経済学研究科は修士課程に以下の3コースを設置し、そうした多様なニーズに対応しています。同窓生の皆さまが、研究、資格取得、キャリアアップ、生涯学習に大学院を利用されることを期待しております。

コース	目的と教育内容	入学試験 ( )は試験科目
研究コース	大学や研究機関の研究者養成を目的にします。また、専任教員免許の取得(中学:社会、高校:公民)、実務家や企業経営者の専門的職業研究、社会人の生涯教育などアカデミックな目的に幅広く対応します。	・一般入学試験 (経済学一般、専門選択科目、外国語、面接) ・社会人特別入学試験 (面接)
税制・財務コース	専門職(税理士)の養成を目的にします。実務の背景となる経済についての幅広い視野と知識の修得もめざします。修士の学位を取得し、国税庁の審査を経ることで一定の税理士試験科目の免除を受けることが可能です。	・一般入学試験 (経済学一般、専門選択科目*、面接)
キャリアアップコース	社会人の再学習コースです。実務家、企業経営者、資格保持者等の高度専門教育、現職教員の専修免許取得も可能です。実践分野の科目を中心に平日夜間開講や土曜開講も実施されており、働きながら勉学し、修士の学位が取得できます。	・社会人特別入学試験 (面接)

※ 博士後期課程にはコース制はありません。詳細は「大学院入学試験要項」を参照してください。

<問い合わせ先>

教務部教務2係 [大学院担当]  
電話: 03(3418)9117

\*「税制・財務コース」の専門選択科目は「租税法」必修。

	入 学 年	試 験 日	合 否 発 表
2月試験	平成19年4月	平成19年2月22~23日	平成19年3月2日